

勿来八景について

中国は、宋の時代、文人達は湖南省洞庭湖付近、瀟水と湘湖が合流するあたりの名勝を「瀟湘八景」と呼び、書画に表わしてきた(11～12世紀に画題として成立)。

日本においても、「瀟湘八景」に倣い、鎌倉時代には、博多湾を洞庭湖に見立てた博多八景、室町時代には、琵琶湖南に近江八景、江戸元禄時代には、金沢八景等がつくられた。

時を同じくして、このいわきの地においても、俳人露沾は、俳諧をもって「平曲松八景」、「小名浜八景」、「大高八景」等を選んだ。

ここ勿来の地において詠まれた大高八景は、大高朝霞、関田晩鐘、湯嶽晴雪、大嶋夜雨、平潟帰帆、小浜夕照、佐糠落雁、中田秋月の八題の俳諧をいう。

これらの景観は、旧大高村を越え、現在の勿来支所管内に広く位置することから、瀟湘以来の先例に倣い、これを勿来八景と呼び替え、勿来支所管内の縁の地にそれぞれの句碑を建立し、昔日の面影を残す郷土のすばらしい景観を後世に伝えることとした。

勿来八景 ※ 原文では「大高八景」 内藤露沾俳諧集より

1	おおだかのちょうか 大高朝霞	神とやは 八重に霞の 菩薩号 かみとやは やえにかすみの ぼさつごう	立圃
		勿来町大高八幡神社付近の朝の霞がかかった風景。句碑：大高八幡台遊園地	
2	せきだのばんしょう 関田晩鐘	音淋し 松山寺の 蟾の暮 おとさびし まつやまでらの ひきのくれ	露沾
		勿来町関田松山寺の鐘周辺の風景。句碑：松山寺境内	
3	ゆのだけのせいせつ 湯嶽晴雪	窓晴て 佐波古間近し 雪の尺 まどはれて さはこまちかし ゆきのしゃく	沾國
		常磐湯の岳遠景。句碑：南の森スポーツパーク	
4	おおしまのやう 大嶋夜雨	香を焼て 簾の聲も 水鶏哉 こうをたきて すだれのこえも くいなかなか	昨非
		鮫川橋南部付近の夜の雨の風景。句碑：鮫川右岸	
5	ひらかたのきはん 平潟帰帆	昆布とりの 真帆はいぬめり 雲の嶺 こぶとりの まほはいぬめり くものみね	沾梅
		平潟港に戻る漁船の風景。句碑：勿来海水浴場	
6	おばまのせきしょう 小浜夕照	一しくれ 夕日に干や 鰯網 ひとしぐれ ゆうひにほすや かれいあみ	露沾
		小浜漁港の夕暮れの風景。句碑：小浜漁港	
7	さぬかのらくがん 佐糠落雁	夜は分る 孤雁なるらん 捨小船 よはわくる こがんなるらん すておぶね	等躬
		佐糠町付近の田畑、河川、海岸等の風景。句碑：鮫川左岸	
8	なかだのしゅうげつ 中田秋月	荒町と 曲らぬ月の 歩みかな あらまちと まがらぬつきの あゆみかな	由之
		錦町中田地区の秋の月とその風景。句碑：中田八坂神社	